

基本方針4 木育活動の推進

分類ア 木育体験機会の充実

重点

行動計画1 他産業分野や森林ボランティア団体等と連携した森林環境教育や森林・木工体験活動の実施、木育施設と連携したイベント等の実施

(1) 背景・課題

- 管内の11の木育関連施設では特色あるイベントが実施されているが、多様化するニーズにさらに応えるには、(一社)オホーツク森林産業振興協会を中心に、国や道が育成している木育インストラクターや木育マイスターとの連携が効果的である。
- オホーツクみどりネットワークなど森林ボランティア団体が一般参加者を対象にした森林環境教育を継続的に実施していくほか、様々な実施主体が国有林、道有林、市町村有林などをフィールドにして植樹祭や林業体験などを今後も継続して実施し、一般参加者が森林とふれあう機会を提供していく必要がある。また、教育分野や福祉分野など他産業分野とも連携して、さらに森林や木材に親しむ取組を広げていく必要がある。
- 森林資源の適切な管理と暮らしへの地域材の利用を図るため、(一社)オホーツク森林産業振興協会や関係機関が、森林資源の状況や地域材の利用の意義などの情報発信を強化していく必要がある。
- 「ほっかいどう企業の森林づくり制度」を活用した「コープ未来(あした)の森づくり」など、企業のCSR活動としての機運が高まっていることから、地域の森林整備に関する情報提供や企業単位での森林づくりへの参加を推進していく必要がある。

(2) 行動内容

- 各施設が木育に関する指導者の養成研修を活用し、指導体制を整備するとともに、木育関連施設と連携したイベントを実施する
- (一社)オホーツク森林産業振興協会を中心に、教育分野など他産業と連携した森林体験や木工体験等を実施する。
- 各機関がこれまで同様森林ボランティア団体等と連携した森林環境教育等を実施するとともに、連携者に対して森林資源の状況や地域材の利用の意義などの情報発信をする。
- 企業が行う環境活動の取組に対し、行政機関や関係団体が窓口になり、公有地等の活動フィールドを提供するなど受け入れするほか、ホームページなどにより取組事例の情報提供を行う。

行 動 内 容	実施年度					行動主体					
	H 28	H 29	H 30	H 31	H 32	流 域	材 業 界	関 係 団 体	市 町 村	振 興 局	国
木育指導者と連携したイベントの実施	←				→	○	○	○	○	○	
他産業と連携した森林体験や木工体験等の実施	←				→	○		○			
森林ボランティア団体等と連携した森林環境教育等の実施	←				→	○		○	○	○	○
企業が行う環境活動の取組に対する支援	←				→	○		○	○	○	○

(3) 成果指標・目標

設定しない

参 考

◆オホーツク管内における活動状況

＜オホーツク木育ネットワーク＞

（一社）オホーツク森林産業振興協会が中心となって、オホーツク管内の木製遊具や木工作体験設備などを有する 10 施設がネットワークを構築し、各施設を巡るバスツアーを行ったり、木育月間（11 月）に施設間で連携して木育の PR と普及のためのイベントを実施しています。

【構成員】

- 1 木夢（西興部村）
- 2 北海道立オホーツク流氷公園（紋別市）
- 3 木楽館（遠軽町）
- 4 木芸館（遠軽町丸瀬布）
- 5 ちゃちゃワールド（遠軽町生田原）
- 6 果夢林の館（北見市留辺蘂町）
- 7 オケクラフトセンター森林工芸館（置戸町）
- 8 オホーツク木のプラザ（北見市）
- 9 美幌林業館（美幌町）
- 10 つべつ木材工芸館（津別町）



＜（一社）オホーツク森林産業振興協会基本計画＞

オホーツク「木」のプラザを管理運営する同協会では、平成 28 年度以降の 5 カ年の基本計画を策定しているところであり、地域の森林・林業・林産業、クラフト製品などの情報発信を強化するとともに、引き続き教育分野や福祉分野への木育活動の展開を図ることとしています。

＜オホーツクみどりネットワーク＞

「オホーツクのみどりを多くの人に伝えよう。みどりづくりの課題、団体の活動状況をもっと知ろう。一人でも多くの方がみどりづくりに参加しよう。」のスローガンのもと、オホーツク地域のみどりづくりに携わっている人々の情報交換や交流を行うネットワークです。

平成 27 年 7 月時点の構成団体は、森林・緑化等のボランティア団体の他、観光協会や木材関係団体、コープさっぽろ北見地区本部などの 16 団体で構成されています。ネットワークでは毎年知床の森林をフィールドに、一般参加者を対象とした森林環境教育のイベントを開催しています。

＜植樹・育樹活動＞

国有林、道有林、市町村有林などの公有林を中心に、毎年市民だけでなく、漁協女性部や森林ボランティア団体、さらにコープさっぽろやホームックなどの企業による植樹や育樹活動が展開されています。また森林管理署や総合振興局森林室、各市町村では森林教室やツリーイング、自然木工作教室など様々なイベントを展開しています。

＜ほっかいどう企業の森林づくり＞

北海道では平成 19 年度より「ほっかいどう企業の森林づくり」をスタートさせ、道内民有林の整備を希望する企業の募集や森林整備に関する相談窓口を設置し、企業との協働による森林づくりを希望するフィールド（市町村有林等）の募集や、企業と森林所有者のマッチングに取り組んでいます。マッチング事例は平成 27 年度までに全道で 42 件あり、コープさっぽろが美幌町で植樹活動を継続しています。



行動計画 1 大消費地との都市交流による木材利用の促進

(1) 背景・課題

- 紋別市、滝上町、津別町では、東京都港区との協定により、区内大規模施設への木材使用を促進する「みなとモデル制度」に参加して地域材のPRを実施しており、今後とも取り組む必要がある。
- 紋別市ではハウスメーカーと提携し、紋別市産森林認証材を使用した住宅 10 棟のオーナーを対象に紋別市の森林などの体験ツアーを実施し、参加者からの好評を得た。都市部の公共空間では環境との共生に対する様々な取組が広がってきていることから、首都圏などにおけるPRとあわせ、都市住民が地域を訪問するなどの交流を通じて、流域の活性化を図れる可能性がある。

(2) 行動内容

- 「みなとモデル制度」など、各市町村と首都圏との連携により、地域産材や森林認証材のPRを進める。
- 都市住民などが地域の森林、林業、林産業、木育施設等を体験する森林産業・環境体験ツアーを流域活性化協議会や振興局など、各行動主体が企画、実施するとともに、情報共有をする。
- エコツツエリア協会等での公開講座を活用した情報発信による首都圏企業のCSR活動の呼び込み。

行 動 内 容		実施年度					行動主体						
		H 28	H 29	H 30	H 31	H 32	流 域	木 材 業 界	関 係 団 体	市 町 村	振 興 局	国	
首都圏への地域材のPR	「みなとモデル制度」などを活用した首都圏との連携	<				>					○		
都市住民等の体験ツアーの企画・実施	森林産業・環境体験ツアーの実施と情報共有	<				>	○	○	○			○	
	首都圏における公開講座の活用等 CSR 活動の呼び込み	<				>	○					○	

(3) 成果指標・目標

設定しない

参 考

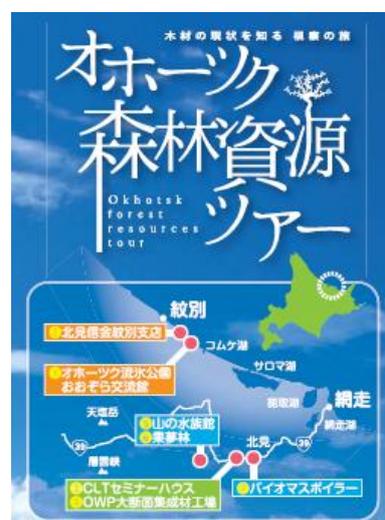
◆みなとモデル二酸化炭素固定制度

港区内で建てられる建築物等に国産木材の使用を促すことで、区内での二酸化炭素（CO₂）固定量の増加と国内の森林整備の促進による CO₂ 吸収量の増加を図り、地球温暖化防止に貢献する制度。この制度では、港区内に建設される大規模建築物に対して、一定程度木材を使用するよう努めることとされており、港区と「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結した自治体から産出される協定木材の使用を特に推奨しています。管内からは紋別市、津別町、滝上町の3自治体が港区と協定を締結しています。



◆産業ツアーの動き

オホーツク管内には、日本で初めてのカラマツ CLT 建築物があるほか、木造公共施設や木育施設、バイオマスボイラーや木材加工施設など様々な木材産業施設があります。これらの施設を巡る産業ツアーの企画が留辺蘂商工会議所などを中心に進められています。



◆エコツェリア協会の取組

一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協議会（通称エコツェリア協会）は、地球規模の環境問題に都市として対応すべき様々な取組を推進する団体として 2007 年に誕生した。

2016 年には大手町・丸の内・有楽町地区で構成される大丸有地区において、経済や社会、環境といった様々な課題を複合的な視点で対応する都市・地域づくりを目指す「大丸有サステナブルビジョン」の実現に向け、3つのミッションステートメントを制定し、交流施設「3×3 Lab Future（サンサンラボフューチャー）」を拠点として、更なる活動を推進している。

ミッションステートメント

- ・社会と地域（まち）に共通する課題を、重奏（層）する人の絆、ステークホルダーの協働によって解決することで、当地区ならではのサステナブルな社会づくりに邁進します。
- ・大丸有エリア内外の企業や多くの人々の交流機会づくりとソーシャルキャピタルの醸成、それを基盤とした「環境」「経済」「社会」が相互作用で持続的に発展する CSV 事業の創発に取り組みます。
- ・持続可能な社会、環境共生型まちづくりに資する、先進技術に関する R&D と啓発活動に取り組みます。

2016年2月16日三菱地所（株）エコツェリア協会発行「3×3 Lab Future」パンフレットより

分類イ 都市交流／カーボンオフセット

行動計画2 多様な企業の多様な資金による森林整備を推進するためカーボンオフセット導入の促進

(1) 背景・課題

○都市住民をパートナーとした森林整備に加え、多様な企業等の多様な資金による森林整備を推進するため、これまで以上にカーボンオフセットに関する理解と導入の促進を進める必要がある。

(2) 行動内容

○カーボンオフセット制度の理解を促進するため、制度内容及び管内での取得状況等を普及PRする。

行 動 内 容		実施年度					行動主体					
		H 28	H 29	H 30	H 31	H 32	流 域	材 業 界	関 係 団 体	市 町 村	振 興 局	国
カーボンオフ セットの導入	カーボンオフセット制 度の普及 PR	<				>	○		○	○		

(3) 成果指標・目標

クレジット活用団体数

現状値 (H26) 7団体 → 目標値 (H32) 9団体

参 考

◆カーボンオフセットの動向

<カーボンオフセットとは>

カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO₂等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスの埋め合わせをするという考え方

<流域におけるカーボンオフセット活用状況>

流域では平成 27 年度現在、延べ 7 団体がプロジェクトに参加している。

4 町（美幌町、滝上町）連携間伐 J-VER	北海道 4 町連携協議会（足寄町、下川町、滝上町、美幌町）における森林の間伐によるクレジットの発行
美幌町バイオマス J-VER	美幌町内の林地残材から生産されるチップを燃料としたボイラーを「峠の湯びほろ」に導入しクレジットを発行
滝上町バイオマス J-VER	滝上町内の林地残材から生産されるチップを燃料としたボイラーを「たきのうえホテル溪谷」に導入しクレジットを発行
紋別市間伐 J-VER	紋別市有林の間伐によるクレジットの発行
津別町間伐促進 J-VER	津別町有林の間伐によるクレジットの発行
NPO サイト [※] 林-ツ間伐 J-VER	世界自然遺産・知床の森の民有林経営を J-VER によって活性化